

平成 31 年度（令和元年度）

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立大江小学校

令和 2 年 3 月

大阪市立大江小学校 平成31年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、明治7年(1874年)に創立され、創設145年を超える歴史と伝統のある学校である。親子三代以上に渡って本校に通う地域の方も多く、保護者や地域の方々にとっても、本校に対する期待と誇りは非常に大きなものがある。長い歴史と受けつがれた伝統を引き継ぎつつ、一方で、新たな実践を取り入れながら、未来を生き抜く子どもたちのために教育活動を展開している。

本校の児童の規範意識は高く、きまりや規則を守って生活しようと努力する態度が見られる。また、相手のことを考えた発言や行動ができる児童が多いのも本校の特長である。万一、相手を傷つけてしまったときには、指導を素直に受け入れ、いじめの問題にきちんと向き合い解消しようとする気持ちが育っている。学力は比較的高く、真剣に授業を受ける姿が常に見られる。

このような児童の素直な態度や教育の水準の高さを、今後も継続し現状を維持していくことが本校に求められる課題である。保護者・地域との連携を図りながら、児童の「生きる力」の育成と主体的・対話的で深い学びの実現に向け、教育活動全般を通して、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の伸長、豊かな心や健やかな体の成長の促進に努める。

中期目標

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 校内の学習アンケートにおいて「学校で学習するのが好きで自分から進んでやる。」や「授業の内容は、自分ではよくわかっている」という授業の内容についての子どもたちの意見について、肯定的に回答する児童の割合を向上させる。 (マネジメント改革)
- 「主体的・対話的で深い学び」をめざし、授業を展開する。 (カリキュラム改革)
 - ・経年調査国語の「書く能力」「読む能力」「話す・聞く能力」の観点で、大阪市の平均値を2ポイント以上上回るようにする。 (カリキュラム改革関連)
- 「本校の教育に関するアンケート」
 - ・「家庭で学習することができている」と答える児童の割合を前年度水準より向上させる。 (カリキュラム改革関連)
- 「全国体力・運動習慣等調査」
 - ・20mシャトルラン・反復横とび・長座体前屈（男女）、50m走・立ち幅とび（男子）の平均を全国水準とする。 (カリキュラム改革関連)
 - ・「早寝・早起き・朝ご飯の習慣が身についている」と答える児童の割合を毎年、向上させる。 (カリキュラム改革関連)
- 「本校の教育に関するアンケート」
 - ・「運動に親しむことができている」と答える児童の割合を毎年、向上させる。 (カリキュラム改革関連)

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 「全国学力・学習状況調査」の児童質問紙「学校のきまりを守る」や「いじめはどんな理由があってもいい」に関する項目で「当てはまる」と答える児童の割合を、全国水準とする。 (カリキュラム改革関連)
- 「本校の教育に関するアンケート」
 - 「まわりの人にやさしく、一人でぼつんといふ子がいないように」で、「そう思わない+あまりそう思わない」と答える児童の割合を前年度水準より減少させる。 (カリキュラム改革関連)
- 互いのちがいを認め合い、共に学び、共に育ち、共に生きる集団を育成していくために、「たてわり班活動」や「多様な体験を伴う活動」を前年度水準より充実させる。 (カリキュラム改革関連)

大阪市立大江小学校 平成31年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）※運営に関する計画再掲**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】****学校園の年度目標**

- ①校内の学習アンケートにおいて、「学校で学習するのが好きで、自分から進んで取り組んでいる」、「授業の内容は、自分ではよく分かっている」において、「そう思う」「ややそう思う」と答える児童の割合を昨年度と同等または向上させる。 (マネジメント改革関連)
- ②児童が課題を見つけ、お互いに協力し主体的に解決していく「主体的・対話的な深い学び」を積極的に取り入れる。 (カリキュラム改革関連)
- ③「本校の教育に関するアンケート」で、「運動に親しむことができている」という項目で、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ④「本校の教育に関するアンケート」で、「健康な生活習慣を身につけようと心がけている」という項目で、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ⑤長座体前屈の記録を春のスポーツテストの記録より、2学期末には1ポイント向上させる。 (カリキュラム改革関連)

全市共通目標（小・中学校）

- ①平成31年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。
- ②小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- ③小学校学力経年調査における正答率が市平均の2割以上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- ④「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- ⑤全国体力・運動能力、運動習慣等調査における長座体前屈の記録を、前年度より1ポイント向上させる。

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**学校園の年度目標**

- ①校内の学習アンケートにおいて、「学校で学習するのが好きで、自分から進んで取り組んでいる」、「授業の内容は、自分ではよく分かっている」において、「そう思う」「ややそう思う」と答える児童の割合を昨年度と同等または向上させる。 (マネジメント改革関連)
- ②児童が課題を見つけ、お互いに協力し主体的に解決していく「主体的・対話的な深い学び」を積極的に取り入れる。 (カリキュラム改革関連)
- ③「本校の教育に関するアンケート」で、「運動に親しむことができている」という項目で、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ④「本校の教育に関するアンケート」で、「健康な生活習慣を身につけようと心がけている」という項目で、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ⑤長座体前屈の記録を春のスポーツテストの記録より、2学期末には1ポイント向上させる。 (カリキュラム改革関連)

大阪市立大江小学校 平成31年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）**全市共通目標（小・中学校）**

- ①平成31年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- ②平成31年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校の決まり・規則を守っていますか。」の項目について「当てはまる、どちらかといえばあてはまる。」と答える児童の割合を85%以上にする。
- ③平成31年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- ④平成31年度末の校内調査において、あらたに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。年度末の校内調査により学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%にする。

本年度の自己評価結果の総括

本年度行った自己評価では、年度目標7項目中、A評価が4項目、B評価が3項目という結果になった。

「心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上」では、4項目中4項目でA評価となった。校内の学習アンケートで肯定的な回答をしている児童の割合は、学習面・運動面・健康面とも90.0~96.8%となった。また、学力経年調査における標準化得点は前年度と比べて、各学年で-3.0~-+1.0 ポイントとなった。正答率が市平均の7割に満たない児童の割合は、前年度と比べて各学年で+10.3~-1.3 ポイント、正答率が市平均の2割以上上回る児童の割合は、前年度と比べて各学年で-4.0~-+6.9 ポイントとなった。全国体力・運動能力、運動習慣等調査における長座体前屈の記録は男女とも前年度より下回ったが、男女ともに全国平均を上回る結果となった。以上の結果から、概ね目標を上回ったと考えられることから全体としてはA評価とした。

「子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現」では、3項目中3項目でB評価となった。校内アンケートで、交友関係について肯定的な回答をした児童の割合は98.0%、保護者の割合は97.0%であった。学力経年調査児童質問紙の規範意識に関する項目で、肯定的な回答をした児童の割合は94.1%となった。いじめの解消、暴力行為の減少、不登校児童の減少などについても良好な結果が得られた。以上の結果から、概ね目標どおりに達成したと考えられることから全体としてはB評価とした。

今回の結果を元に、改善すべき取り組み内容を明確にするとともに、年度目標の見直しを行い、具体的な方策を検討して、日々の指導が充実したものとなるよう努める。

大阪市立大江小学校 平成31年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】	
① 校内の学習アンケートにおいて、「学校で学習するのが好きで、自分から進んで取り組んでいる」、「授業の内容は、自分ではよく分かっている」において、「そう思う」「ややそう思う」と答える児童の割合を昨年度と同等または向上させる。 (マネジメント改革関連)	A
② 児童が課題を見つけ、お互いに協力し主体的に解決していく「主体的・対話的な深い学び」を積極的に取り入れる。 (カリキュラム改革関連)	
③ 「本校の教育に関するアンケート」で、「運動に親しむことができている」という項目で、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 (カリキュラム改革関連)	
④ 「本校の教育に関するアンケート」で、「健康な生活習慣を身につけようと心がけている」という項目で、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)	
⑤ 長座体前屈の記録を春のスポーツテストの記録より、2学期末には1ポイント向上させる。 (カリキュラム改革関連)	
【全市共通目標】	
① 平成31年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。	
② 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。	
③ 小学校学力経年調査における正答率が市平均の2割以上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。	
④ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。	
⑤ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における長座体前屈の記録を、前年度より1ポイント向上させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【言語力や論理的思考能力の育成】 課題を見つけ、互いに意見交換する中で主体的に解決を図っていく「主体的・対話的な深い学び」を積極的に取り入れる。	A
指標 校内の学習アンケートを実施し、「積極的に意見が言えた」「友達の意見をしっかりと聞けた」と答える児童の割合を75%以上にする。	
取組内容②【習熟度別少人数指導をはじめとする個に応じた指導の充実】 特に習熟の度合いの低い児童にきめ細かい指導を行うために、習熟度別少人数指導コーディネーターや特別支援教育担当、学級担任が指導法について話し合い、児童が達成感や成就感を味わえるような指導を進めていく。	A
指標 校内の学習アンケートを実施し、「学習内容がわかる」と答える児童の割合を70%以上にする。	

<p>取組内容③【体力向上への支援・体育的活動の充実】</p> <p>児童集会で、運動委員会を中心に楽しく運動に取り組めるようにし、体を動かす喜びを味わえるようにする。</p>	A
<p>指標 校内の学習アンケートを実施し、「体育授業の他に1日1回以上、運動場や講堂で運動している」と答える児童の割合を70%以上にする。</p>	
<p>取組内容④【健康な生活習慣の確立】</p> <p>給食後に歯みがきをするようにする。</p>	A
<p>指標 給食後に、歯みがきをしている児童の割合を70%以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】（最終評価・記入欄）

- ① 校内の学習アンケートの結果では、「積極的に意見が言えた」「友達の意見をしっかりと聞けた」と答える児童の割合は、それぞれ89.3%、98.8%となり、目標数値を大きく上回る結果となった。学習において、それぞれの学年の実態に応じ、ペア学習やグループ学習を取り入れ、話し合い、意見交流の場を設定することができた。その結果、学習後のアンケートにおいて「友達の意見を聞いて考えがひらめいた」「友達と自分の考えを話し合うことが楽しかった」と答える児童も見られ、なかなか自分の考えを持てない児童も、意見や考えを記述できるようになるなどの成果が見られた。
- ② 学級担任、習熟度担当、特別支援担当が連携を取り合い、児童の度合いに合わせた指導計画を立てたり、単元によって少人数指導や入り込みにしたりと、柔軟に進めることができた。その結果、児童たちが学習に対して達成感を味わえる機会が多くなった。（アンケート結果より）
- ③ 運動委員会を中心に、「ドッジボールタイム」「耐寒駆け足」「スポーツ大会」「大なわとび」の企画運営など、児童が楽しく運動に親しむ機会を昨年度以上に実施することができた。また、寒くなってきた時期には、外遊びを促す校内放送を行い、1日1回は運動場で遊ぶ児童が増えてきている。
- ④ 保健週間での調査では、週5回（毎日給食後に歯磨きを行った）の児童の割合は、78.5%となり、目標数値を上回った。保健週間の設定、歯磨きタイム、教員による毎日の声掛けなどにより、歯磨きの習慣が身についている児童が多い。

次年度への改善点

- ① 児童アンケートでは、90%以上の児童が「積極的に意見が言えた」「友達の意見をしっかりと聞けた」と答えている。しかし、それらの話し合い活動が、指導者の意図する話し合い、深い学びにつながっているのかという点において、まだ疑問が残る。そのため、次年度以降は上記のアンケートのみで判断するのではなく、「主体的・対話的な深い学び」が行えたかをどのように評価し、どのように見取るかを考えていく必要がある。
- ② 次年度以降は習熟度別学習の進め方も大きく変化することが予想される。次年度の習熟度別学習をはじめとした個に応じた指導を進めていくために、T・Tや入り込みといった指導形態や、より少人数指導に効果的な単元について、学校全体として再考する必要がある。
- ③ 朝の時間や放課後など、運動に親しむ時間を作り、様々な取り組みを進めることができたが、授業の中で体力向上に向けてどのように取り組んでいけばよいのか、校内研修を行ったり、伝達講習を行ったりするなどの機会を設定していく。また、運動委員会の活動がメインとなっているが、委員会の活動として次年度以降も継続していくかについて考えていく必要がある。
- ④ 歯磨き週間の時にはできているが、それ以外の時に遊びに行きたいがために食後の歯磨きを忘れてしまう児童もいる。また、食べることが遅く、歯磨きを行っていない児童は固定化しつつあり、配膳の仕方や給食の食べ方など歯磨きを行えるように時間を確保するための手立てを考えいかねばならない。また、次年度以降の取り組み内容についても考えていく必要がある。

大阪市立大江小学校 平成31年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】	
①「本校の教育に関する児童アンケート」で、「人それぞれ違いがあり、いろんな友達と一緒に学ぶことでいい友達関係ができている」と好意的な回答をする児童の割合を85%以上にする。 （カリキュラム改革関連）	
②「本校の教育に保護者アンケート」で、「なかまを大切にする心が育ってきている」という設問に対して肯定的な回答の割合を85%以上にする。 （カリキュラム・ガバナンス改革関連）	
③「全国学力・学習状況調査」の児童質問紙の「学校のきまりを守る」「いじめはどんな理由があってもいけない」に関する項目で肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。 （カリキュラム改革関連）	
④集団育成や児童理解の深化に向けて、人権教育や特別支援教育等の研修会を昨年度に引き続き充実させる。 （マネジメント改革関連）	B
【全市共通目標】	
①平成31年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。	
②平成31年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校の決まり・規則を守っていますか。」の項目について「当てはまる、どちらかといえばあてはまる。」と答える児童の割合を85%以上にする。	
③平成31年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。	
④平成31年度末の校内調査において、あらたに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 年度末の校内調査により学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【道徳心・社会性の育成】 様々な活動で他者とのかかわりを深めることにより、自尊感情を育むことができるようする。	B
指標 児童アンケートの自尊感情に関する項目において、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。	
取組内容②【規範意識の育成】 右側歩行ができるようにする。	
指標 日常から全校集会や学級で意識づけを目的とした指導を行うとともに、児童アンケートの規範意識に関する項目において、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。	B
取組内容③【人権を尊重する教育の推進・生活指導上の課題への対応】 児童理解を深めるために、人権についての研修会を定期的にもつともに、情報交流の場を設け、全教職員で共通理解を図る。	B
指標 職員会議の後、学級の実態を報告し合い共通理解していく。必要があれば生指部会を開く。特別支援研修会を年2回実施し、人権教育研修会に年1回以上参加する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】(最終評価・記入欄)

【視点 道徳心・社会性の向上】(最終評価・記入欄)

【道徳心・社会性の育成】

- 学校アンケートの⑧、「ありがとう」と感謝したり、「がんばろう」と励ましたりしているの項目で、そう思うが68%、まあそう思うが24%で目標数値を上回っていた。また、同様に学校アンケートの⑨、「ありがとう」と感謝されたり、「がんばっているね」とほめられたりしているの項目で、そう思うが69%、まあそう思うが22%で目標数値を上回っていた。
- 学級、学年での活動はもとより、なかよし班でも児童集会やなかよし清掃、全校遠足などの活動の中で異学年児童との交流も深め、自尊感情を育む機会を増やすことができた。
 - ・なかよし班の活動では、毎週水曜日の児童集会でいろいろな課題について、グループで協力しながら仲良く課題解決に取り組んでいる。とりわけ、6年生が1年生に対して、送り迎えをしたり、やさしく声をかけたりするなど微笑ましい姿が見られる。
 - ・なかよし清掃でも、掃除の仕方や手洗いうがいの声掛けなど高学年が低学年、中学年に対して積極的にコミュニケーションをとっている。

- 子ども達同士で、自分の考えについて話し合うこうで全体の前でも率先して自分の考えを発表できている児童が増えてきた。

【規範意識の育成】右側歩行

- 学校アンケートの④、右側歩行をしているの項目で、そう思うが51%、まあそう思うが39%で目標数値を上回っていたが、そう思うが51%と低かった
- 日頃の学級指導や全校朝会、委員会、階段の掲示等での意識付けによりしっかりと守ろうとする意識が高まっている。
 - ・生活指導目標の中で、年3回強調月間を設けて指導を行っている。全校朝会の生活指導の中でも、児童が守っていけるように働きかけている。
 - ・運営委員会活動でも、児童が学期に1回廊下、階段の右側歩行を促す取り組みを行っている。20分休みに校内を巡回して声掛けをしたり、チャイムが鳴って急いで教室に戻ることがないように、2、3分前に放送を流したりしている。

△右側歩行がなかなかできない。特に、階段で左から前の児童を追い抜かす児童がいた。

・休み時間のはじめと終わり、移動教室、雨の日のときなどに急いで走る姿が見られる。

【人権を尊重する教育の推進・生活指導上の課題への対応】

- 研修会や職員会議での情報交流を定期的にもつことにより、全教職員で児童の様子について共通理解を図ることができている。

次年度への改善点

○道徳心、社会性の向上

- ・自尊感情を育むことができるように指導していく。学級全体での活躍の場を増やす。
- ・アンケート項目の改定。自尊感情という文言をアンケートに入れる。

○規範意識

- ・継続指導（右側歩行）
- ・右側歩行を「できる」だけの割合で評価するのがいい。
- ・掃除がしっかりできていないところがあるので、重点的に取り組んでいく。